

江戸名所圖會 十六

農務省 農務省  
 圖書 圖書  
 第 第  
 冊 冊  
 共 共

太政官文庫 和書門  
 一 二 三 八 七  
 二 七 一 八 七  
 〇 七 一 八 七

内閣文庫 和書類  
 一 二 三 八 七  
 二 七 一 八 七  
 〇 七 一 八 七

内閣文庫	
番號	和 11387
冊數	19 (15)
函號	174 31



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



江戸名所圖會卷之六

岡陽之部目錄

金龍山沙弥寺

法系川

法明神社

徳園社

香越の神社

手向野舊址

日輪寺

海禅寺

祝言寺

親音堂

石の枕末由

観世音出現

三ツの神社

樞寺

浪舟八幡宮

西福寺

天嶺院

清水の親世音

長遠寺日蓮大士

山門

護玉殿

三ツの神社

大慈大悲八幡宮

第六天神社

淨念寺

報恩寺

報恩院

上文太子堂

幡随意院

六層塔

十社権現社

法明河

楊枝

六月十日祭の内

三ツの神社

大慈大悲八幡宮

淨念寺

報恩寺

報恩院

輪

念

法

楊

六月十日祭の内

三ツの神社

大慈大悲八幡宮

淨念寺

報恩寺

報恩院

道

念

法

楊

六月十日祭の内

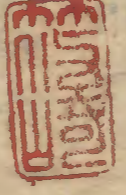
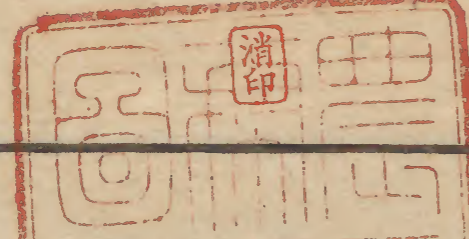
三ツの神社

大慈大悲八幡宮

淨念寺

報恩寺

報恩院



永昌寺

東叡山山下の島

養玉院

金枝安樂寺

不動堂清の松

本戸孝範第宅回廊

後多の塚

熊野権現社

彼岸法の本

徐木法陀如東

白藤塚

石浜

牛頭天王洞

廣徳寺

六条天神社

若菜寺圓覺堂

根岸圓光寺

心燈寺

小塚東天王社

子任大塚

富士湯間宮

西新井法大師堂

梅田明王院

石浜城跡

天満宮

下谷稻荷社

常樂院

入谷庚申堂

兼輪西光寺

万里小橋寓居之地

飛多の神社

光榮院

湯間の洞

大師加持水

天満宮

不動堂

橋場

志清稻荷社

下谷岡

上野坂本口圖

小野照清神社

時多

子束郷

山谷熱田神社

誓願寺

沼田延命寺

十二天森

六月村八幡宮

誓大神社

新日神の文

思ひ川

隅田川渡

總泉寺

鏡の池

東野先生墓

長昌寺

山谷堀今戸橋の番

聖天宮

石浜古戰場

袈裟掛松

法源寺

今戸八幡宮

日本堤

西平合戦之圖

沙茅の系

采女塚

礎水鶏の系

慶養寺

新吉原町

新尾不動堂

妙無神社

玉姫稻荷洞

今戸陶器師

志去山





秋も本末れ花も  
あはれさの  
露うれれ  
角田川りれ  
宗牧

東國記行  
角田川もええけり  
本末のすうある梢ありとい  
冥東順禮観言浅きと云  
取とらん立よりて結縁  
まべーあといひ

冬れ色ハ  
うさしきもの  
うさしき  
庭の家を  
のこを  
庭りれ

田園雜記  
依草とつる和よ  
とすりり  
庭小孩ねるまを  
と

天弁  
葉秋  
まあか  
風雷神  
大宮  
寺水屋  
町木並

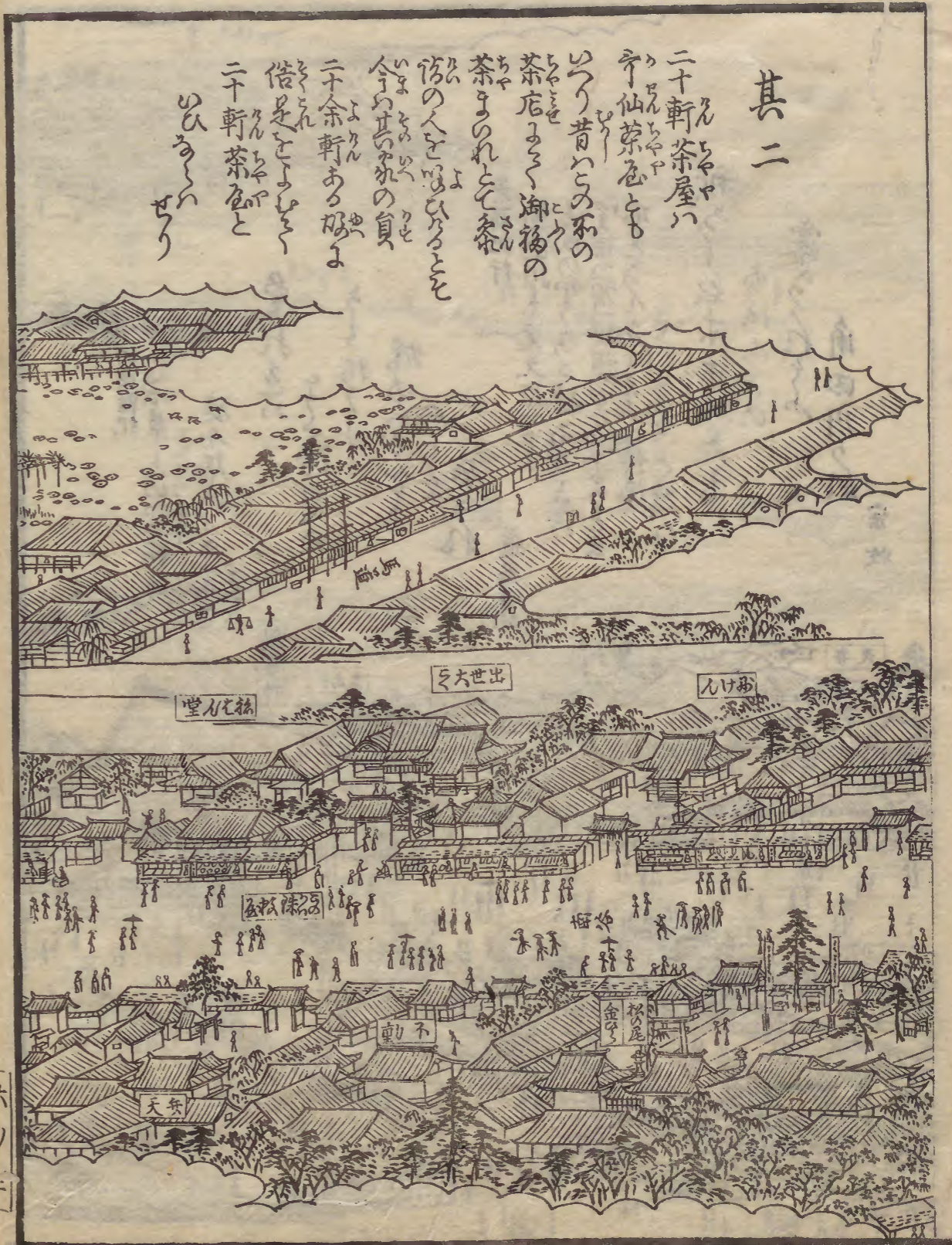


川草浅

戸川元

金龍山  
浅草寺  
全圖  
共五枚

町木並



其二

二十軒茶屋ハ  
予仙茶屋とも  
いつ昔いらぬ所の  
茶店まゝ御福の  
茶子のれとを奈  
防の人とひらるとを  
今の其の負  
二十余軒ある所よ  
借是とてし  
二十軒茶屋と  
いひまゝ  
せり









法威能救衆生憂  
 小白華山彼岸舟  
 若把馬車令渡水  
 應同海底有泥牛  
 羅山子



其  
 五



再ハ今ある所の供撞と傳治ビ一と云へ一徳に年ハ夢と改之の手あり

日本國 武列 豊島郡 十束 郷 金龍山 淺草寺 洪鐘銘  
夫鐘者 震梵苑之 枯禪發 騷檀之 深省者 矣南閭 浮  
提各以 音聲長 爲佛事 西郡 勝地特 開襟綉 紉此道  
場於是 傳法聊 持短疏 勸發 善緣新 鑄息乳 之鐘永  
扣龍澤 之月耳 根契證 者速趨 解脫之 門庭眼 裏聞  
聲者則 蘿山通 之妙果 當時若 不記者 後代誰 得識  
哉銘曰 響備九 天 新鑄成 後 福應大 千  
末鑄成 前 當空高 懸 輕撞著 墮佛事 邊  
規模脫 出 輕撞著 墮佛事 邊  
至德二 年卯五 月初三 日 勸進僧 都海譽  
勸進大 和國道 高  
鑄工和 泉弁經 宏

三社大權現社 奉堂より長の方小あり女師中知ちり小入人檜前廣成武成等の靈と配て崇  
初修當寺の護法社とす世小三社の護法ともいひり林醉の慈覺大師の作と當社  
の浅草の護法よりて祭れり三月十日合満年小執行あり三社の末由の奉る縁起の中詳されり  
と小畧と傳の堂より荒澤不動の歡喜天寺を安んず 華表  
額 三社大權現 隨喜樂院一品公道法親王真蹟 熊谷稻荷祠 奉堂の後の方あり  
あり人勸進と末由の解をいひてと小畧と云へり 十社權現祠 同所在の方小あり十人の草刈をせり  
内陣小狩聖周信筆の搦兵慶の掛繪あり

念佛堂 同所小あり 阿彌陀如來を奉りて  
十六日奉 宿群とちり額小阿彌陀王殿と  
あり朝鮮國眞陀金塔の筆あり 脱衣婆像 同堂中あり慈覺大師の作  
因阿井の傍小あり世小長石地藏と云又倍保て小野小町石塔と云 祐一弘法大師の作ありとも  
之と共小湯あり長を丈余個さす尺あり後厚あり寸ありあり寛保二年八月の景向小折  
て今三段とちりり上の傳法院構の中稽の義初の傍小あり其狀上小比花薩摩の種字を  
鶴中庭小多像の地を奉りて刻と側小使門是を刻す餘相あり又下の方小花鏡小蓮花を挿す  
尤右小文字三十有九字と傳す其文小云く

右志者 四殊 由三 昧 汝彌 西佛 先妻 女並 男女 二子  
爲一 殊 四彌 西佛 現當 二世 諸願 四滿 西佛 敬白

盛政入道西佛又其二海地幸親の男藏入通廣世小丈夫活覺明と云是ちり後親尊上人  
の弟子とちりり西佛と号と又其三小東鑑建長五年八月廿四日下總小河辺庄の提と築  
圓るも中使傳あり奉りて人定らるるの條下小彌田三郎入及西佛といふ名を奉り  
少のて同名三人すてあれりつとを是とすた碑面年号を記されり詳小定らるる訂正  
を撰といふ

護摩手壇之趾 同所然也権現の後の方塚の中小あり信和帝天長年間慈覺大師東  
遊此の路派適當寺小願り室前小持念するのあり三社權現の靈示ありなる  
加蓋を再修ありて永く止觀の法燈と云け中興の大徳と稱ふは一十座の護摩を後  
加蓋人の法の發系案と稱ふあり 護國殿 同所小あり大光明王の像あり小自然木の  
より東順れ記し土あり 多聞天等と云ふと堂の往古淺嶋明神の比小

東照大權現の祈宮あり一頃の護摩堂たり一寛永十九年二月の炎上小燒後よりと云ふ  
傳此石一遷一と云ふ事小其ありも築の作致を後  
淺嶋明神社 奉堂の左の方小あり昔此地小 東照大權現の祈宮あり一寛永十九年  
二月十九日門前より出たて其時ありと云ふ 御宮燒亡あり一小依

六月十五日  
祭禮之圖





節分會





鑄師 武州深川 大田近江大椽藤原正次

石枕 いのかまくら 中東中若明主院小あり庭中小小の枕あり是を焼く枕と号すまゝ尚書の付家小石の枕あり傳説の文明年中道奥の京后回國雜記小生る文章と小記と願る倍侍と異なり回記よりをうつく尤小筆と其の代へ末の父の枕と云ふ一七

回國雜記云 此里れんとて石枕といふゆゑにたかふ石のり其故を尋ぐると中頃の半小やありむちまはちひたり娘と一人持つり容色おほつるよのつねちりりかの父母娘を遊女小ちて道あるとと小むむひかの石枕とていささひて交會のゆせいとふらとつりり兼てよりあつたの夏されの折をそのひて彼父母枕のるに多寄くとも縁一をりりる男のひつをうららたると衣装以下物と取て一生を送りたりたると小彼娘はやくとひらかやうあきりさやや義程もきた世の中小のるゆゑにその業として父母りるとも小悪越小墮して永劫沈淪とむるののれにさ先非小遊てい悔ても益れ一是より後のるまゝ工夫して所給我父母を出一也

楊枝店 やうじてん 境内楊枝を賣る店甚多し柳屋と稱するりのをりて本原とをさると今其茶号を唱ふるの多く竟よは地の名産といふるなり僧徒律より楊枝は五つの利あるを載て云く

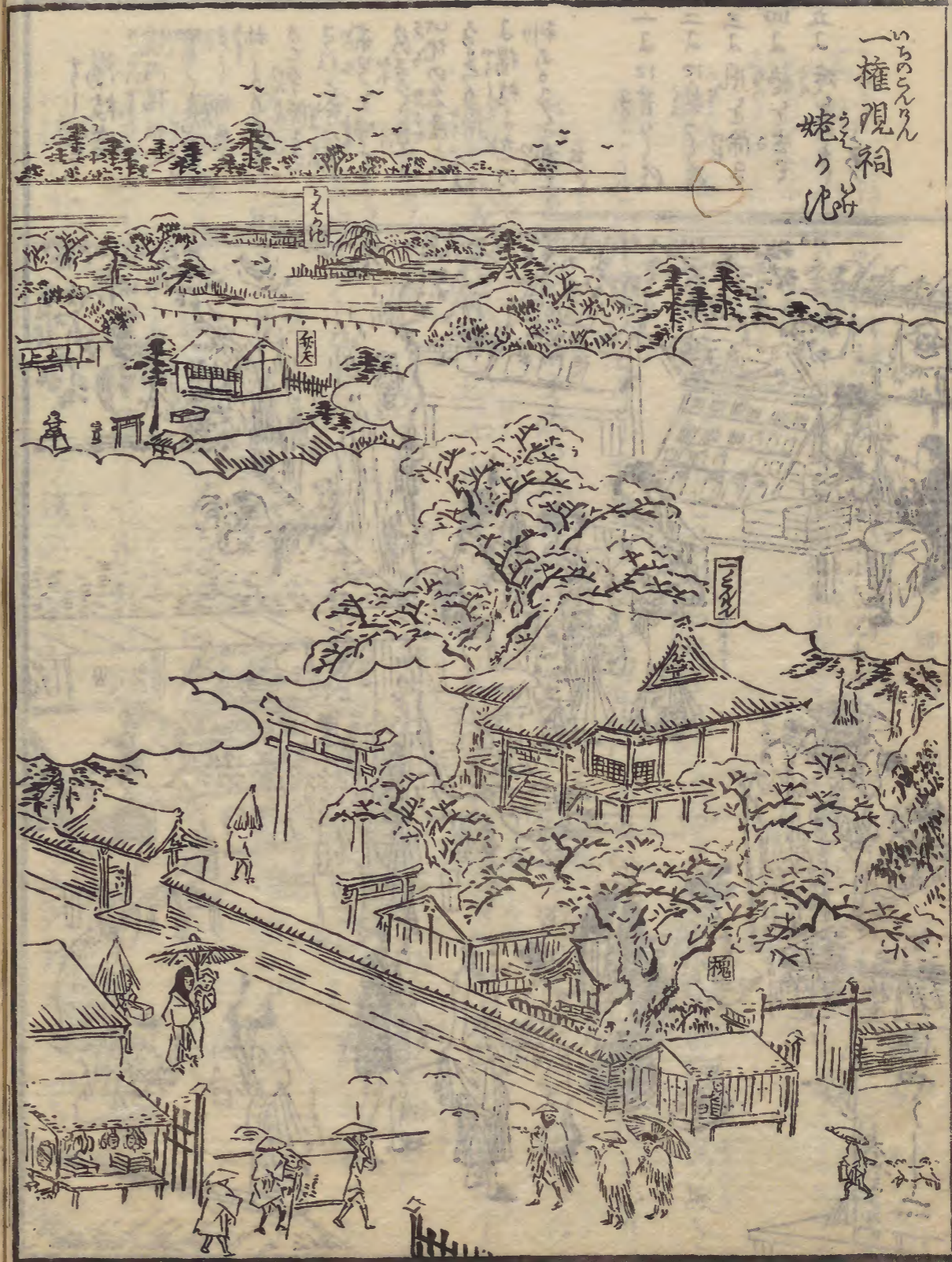
- 一はに苦ろく
- 二はに臭ろく
- 三はに風を除る
- 四はに熱を去る
- 五はに痰をのろく



柳屋



一権現祠  
焼り沈み



きて見むと思ひある時道ゆへありと告て田の如く出きて彼石小  
 外りのつもの如くを得て頭を打らるるなり急き物とも取むとく  
 引かきたる衣をぬけて見む人獨りなりやくとひてよ  
 られ我娘なり心もられまといてあさましきも云らるるれ一夫  
 より彼父母をまふ小發んで度々の悪業をも悲愧懺悔して今午の  
 娘の菩提をも深くとらひまゝりくると語けはるよ古老の令られ

ほろろのつらさ世もさる石枕をこのおりの思ふららめ

當所の寺号淺草寺といふ十一面觀音小てまつるをくひぬ

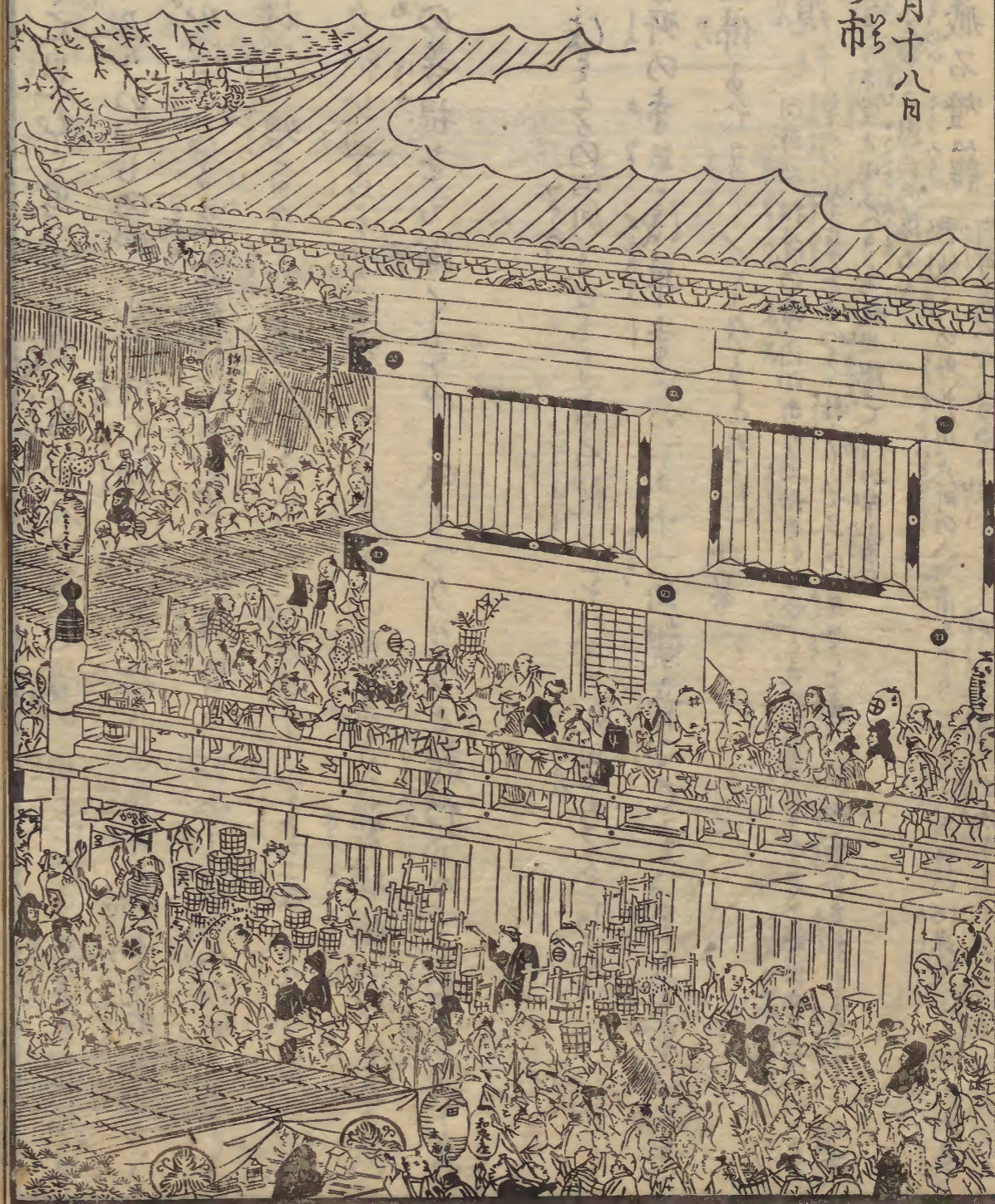
靈佛よてまゝくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一権現社 因所頭松院の境内小あり土俗めむ堂と云往古當寺奉る觀世音出現の  
 草刈の草蓐とりつゝ柱とひとの草堂と建て彼聖像と安坐一奉る一旧跡  
 ちり小あり堂と唱へて後世遷て河加草堂と  
 あり傍小觀る影向の槐あり  
 六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸町の入口角小あり双小土人此所の河岸をさへて古地蔵  
 河岸よりつらさの池の往古より奥列海道の馬次ありとを其頃かまらん

観音堂の  
西面  
念佛堂の  
勢い  
園



十二月十八日  
年の市





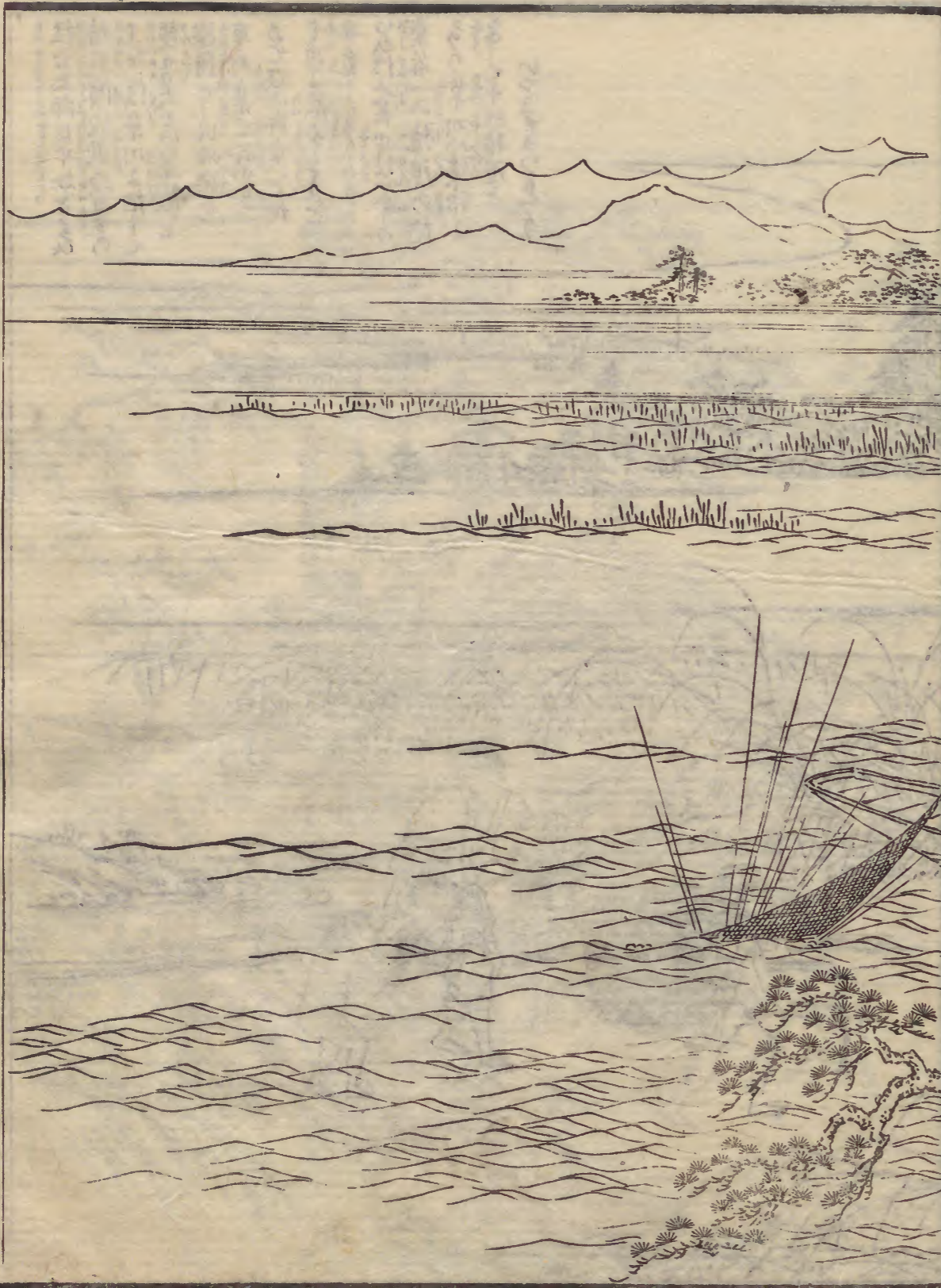
馬市  
 萩の内と  
 十二月  
 毎  
 南  
 二  
 買  
 賣

門前後籠屋町... 三月十八日の市... 伝云久安二年丙寅... 猶復若くして... 西面小六軒の地... 坊舎三十余宇... 専堂坊 齋堂坊 常音坊... 雷神門 金龍山 曼珠院二品良尚親王真蹟

本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇... 此此地小流浪... 家臣檜熊濱成武成と云二人の兄弟... 人恒小漁獵を産業とて小年月を送り... 小作と可うんを續日本後記小村前舎人直由加麻呂武藏國美那の人小一七六師氏と題を同... 又延喜式兵部省諸室の牛の牧の中にも武蔵國村前馬牧とあり是等小一と記

同二十六年戊子二月十八日の朝... 風静ちるを... 遊奥へさく小れく... 異浦小至りてもいよ... 機縁の浅く... を忍ぶの... 為て一宇の香堂を... 後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日... 夫より回帰七度... 是累年此地の漁獵... 年乙巳勝海上人東行の次適と小未て再營す... 己降秘佛とて拜す... 天慶五年壬寅安房守平公雅... 武藏下野兩國の守小任とてあり又同書小同四年七月十六日...

則當寺の冠山と稱す... 勝海上人... 大系家小徒五位上平... 推武藏守小任... 天慶二年三月廿九日... 將門純友誅戮の時...



見たり一草あり  
 後草寺観音大士  
 の土現あり一ハ  
 推古天皇二十六年  
 戊子二月十八日あり  
 土師中知とて  
 檜前濱成武成等  
 の主従三人の宮  
 戸川の網をわけて  
 は平をぬき得たり  
 一よ一録記  
 の中より詳あり



其の古師臣中知と云  
 榎前實成武成等の  
 主従は草川子細と  
 親音大士の女孫を  
 感得て以此地の  
 草川集て菘とて  
 りて後の御堂と化  
 せしは彼奉るを  
 安らぎを祈りて  
 りて其の地を  
 新谷一の権現の地  
 たり草川は後社と  
 なりて十社権現と  
 なりて十社権現と  
 なりて十社権現と

西度の戦い小軍のあつたを以て武藏守小住とて同五年の長任限満すて重病小かつて卒せ依るる雅  
とは國の守小住とてありて雅の常陸大城國香の弟上總介良兼の長男とて平将門を諫めて切腹せ  
て一六部と連 當寺小諸當國の大守たつてむを祈求すつてつてあつてつて仕仕  
り見たり

此國の守とあるとつれい靈驗の空のつけるをあの奉て奉堂とて以て宝塔撞樓

樓門徑藏法華常行六所の社壇 六所の社壇と造る一田園數百町を附して長く龍

蓋の曉を期す 又長久二年辛巳十二月廿六日地震動一と佛客顯例 逆小後白河院兼曆

三年己未十二月に日堂塔回録す其時奉尊火中とて出く坤の榎の梢よりつて

ぬふ兼徳二年戊寅に月藤原成實四箇年の間當國を拜任し猶重任の登

りの祈願一靈驗あり依代々宰護の田畑を尋く元の如く皆施入一奉

其後左馬頭源義朝當寺へ泰請ありて

堂塔を修營し彼坤の榎を以新小觀音の像を彫刻して納らる 其後今内陣

又仁安三年戊子用舜法印大要小因心 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

佛岡を修營す法義四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とあるは縁起あり十七日小

妙山禪師の遺小冠 年中近の棟札小武別作越の城主大道寺 忠善上人を以て別當職とせ

駿河守是を奉行すとありと云々 北条幕下遠山丹波守の赴きあり又其師忠海上人との縁別細川律師定禪の末葉武品金澤の城主 伊丹三河守の子あり三河守宿願の事ありて赤子を故門とて當寺の別當とせ是より後代々伊丹遠山の 家より別當職とせ 然る小元禄年中故ありて 或人云貞享 別當知樂院権僧正宣存 相續せりとあり

鎌倉一退居一夫より東廬山小属を當寺奉尊ハ殊小

大神君 御信仰最厚小依く寺領若干を附せしと寛永十九年二月十九日

田録の後も慶安三年庚寅六月三日手鉦をありて堂塔御建立ありより

終正會 除夜より正月六日小 牛王加持 同日己の刺執行す同日三社 多羅尼會 同日十二日より 七日の同日夜 祭禮 満年三月十八日ありて祭礼ハ往古和元年の神託小依くこれをせし十七日小三社の 温座にて修行す 神輿を本堂へうつ 拍板獅子舞あり當日ハ神輿を浅草の大通りへ渡り浅草橋小 さらさらあり 舟小乗一掃雲ハ約政よりうつせり此日例として武列六太鼓等の儀村より獵船とせしかり せりり人未だなくとも供物を往古此祝の獵師と大表村の辺に掃く一々あり今も祭礼小は儀有とせり

義市 同日近庄の農夫義を持て雷神門の前 拍板 毎年六月十五日執行す此日七三月十七日の如 其介神と執行す此祭礼ハ鎌倉右府の軍再興 千日齋 七月十日の夜より齋詣群集より信小の ありとせり其拍板ハ甚古雅なりと殊勝あり

年の市 毎年十二月十七日十八日市田のゆの備小假屋を徹け住連飾達業飾物等すくは首の買小 用ゆを種くを賣買す浅草大通りとも小群集す殊更境内ハ尺寸の地ハ

抑當寺の一千百七十有余年を經の古刹うて實小日域無雙又般急目の靈

區より其靈驗の著るハ普く世小知所あり常小金鈴玉磬の響音絶す燒香

散善の勤行怠るまら朝より夕小至る近糸請の貴賤袖を連く場り

亮満と殊更月毎の十七日一の通夜の緇素堂中小糸龍と終夜誦經念

咒急慢る一又境内賣物の扱まら中も錦袋圓儀草餅揚枝殊枚五倍

子茶釜酒中花香煎厚人形の類殊小浅草海苔も其名世小芳一手遊

錦繪等を商人店軒とあらを他邦の人と小至りて其意旨を志へ

浅草川 隅田河の下流もく舊名と宮戸川と号し 白奥紫鯉の

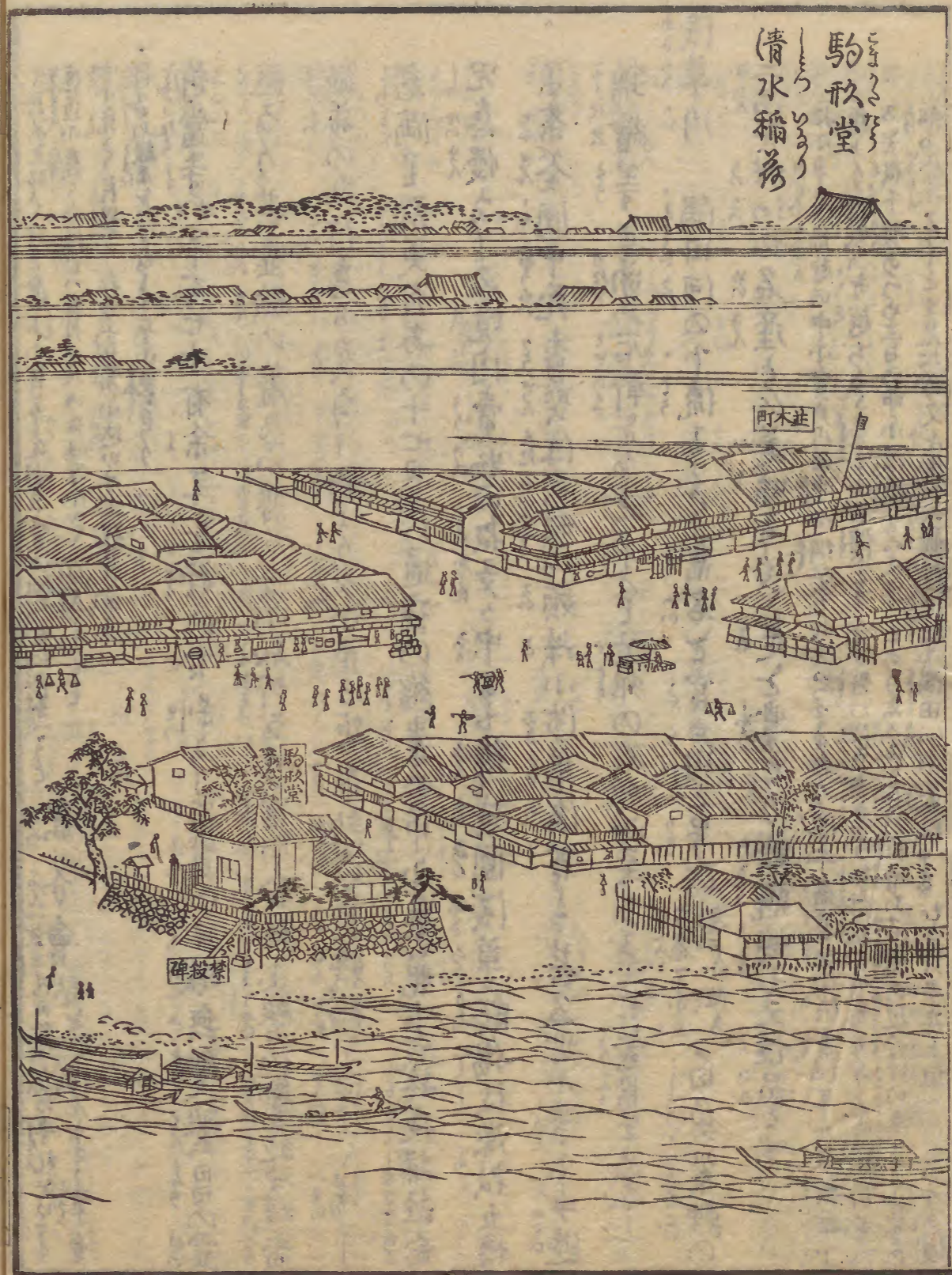
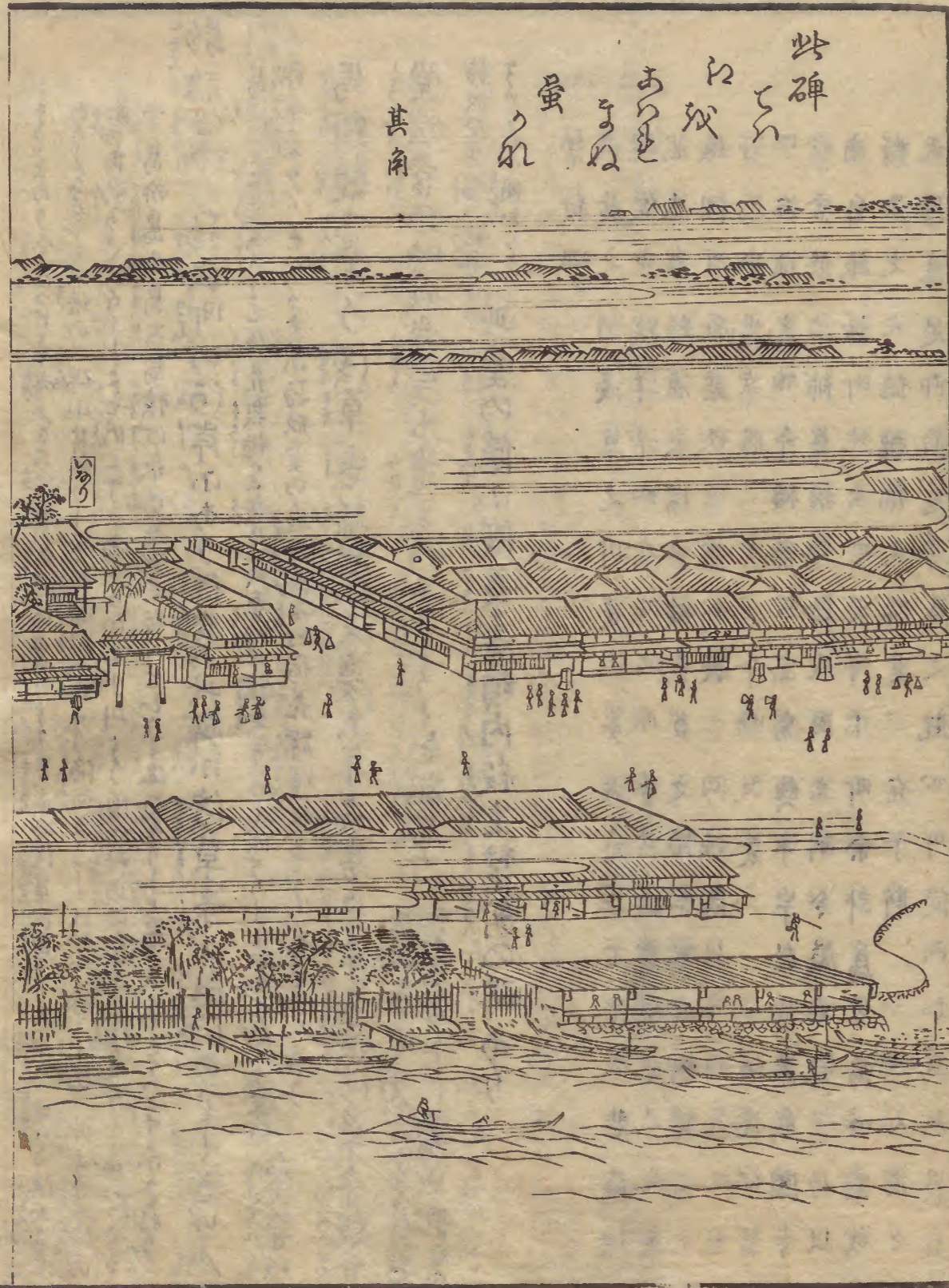
二品と此のの名産とハ美味もく是を賞り鰻鱺蜆も又佳品とす

按小本多縁起の中小宮戸川の中小細をりてとせり原平盛妻記ハ治養二年九月頼朝ハ

總より武藏一打越らるる各小石濱とすす野ハ戸を席り知行不ありあり酒酒船の着た

るを板千艘あり三日の中小浮橋とせりとありとあり往古ハ石濱の出入津の儀もく西宮の 船ハハ末とせり又氏康武藏野記行小隅田河小着ぬ中巻むらハ安房上總のあり之渡





其頃、左右並木、一と極花松株を栽、牛、春時、殊更、あつても深、う、一、寛永、十年、の、奉、尊、の、  
 印、卒、東、わ、り、と、の、書、小、狗、取、堂、の、近、並、木、の、極、花、松、燬、た、る、と、し、と、ま、る、と、し、り、  
 馬、頭、觀、音、の、後、草、寺、縁、起、小、天、慶、五、年、安、房、守、子、公、推、歩、草、寺、觀、音、  
 堂、造、營、の、時、此、堂、宇、も、建、立、の、り、と、し、と、記、し、り、  
 狗、取、堂、と、號、し、地、名、も、  
 此、堂、の、傍、小、淺、草、寺、領、内、殺、生、禁、断、の、碑、あり、  
 武、藏、之、碑、  
 現、像、垂、釣、跡、洋、如、在、昭、而、著、其、為、靈、境、亦、已、尚、矣、  
 然、恣、事、厭、惡、伏、惟、靈、刹、數、回、祿、蓋、以、大、悲、為、此、有、  
 所、不、安、也、幸、遇、禮、崇、三、宝、有、興、寺、宇、於、是、去、歲、闔、寺、  
 四、海、深、重、物、命、猶、如、新、成、因、立、制、令、嚴、戒、殺、生、乃、以、  
 堂、舍、修、治、補、葺、猶、如、新、成、因、立、制、令、嚴、戒、殺、生、乃、以、  
 南、自、誦、大、德、種、福、之、勝、業、一、在、干、斯、人、主、之、  
 好、生、之、大、德、種、福、之、勝、業、一、在、干、斯、人、主、之、  
 天、恩、意、足、仰、而、望、菩、薩、之、觀、心、可、從、而、知、區、區、愚、哀、

禁、殺、之、碑、  
 武、藏、之、碑、  
 現、像、垂、釣、跡、洋、如、在、昭、而、著、其、為、靈、境、亦、已、尚、矣、  
 然、恣、事、厭、惡、伏、惟、靈、刹、數、回、祿、蓋、以、大、悲、為、此、有、  
 所、不、安、也、幸、遇、禮、崇、三、宝、有、興、寺、宇、於、是、去、歲、闔、寺、  
 四、海、深、重、物、命、猶、如、新、成、因、立、制、令、嚴、戒、殺、生、乃、以、  
 堂、舍、修、治、補、葺、猶、如、新、成、因、立、制、令、嚴、戒、殺、生、乃、以、  
 南、自、誦、大、德、種、福、之、勝、業、一、在、干、斯、人、主、之、  
 好、生、之、大、德、種、福、之、勝、業、一、在、干、斯、人、主、之、  
 天、恩、意、足、仰、而、望、菩、薩、之、觀、心、可、從、而、知、區、區、愚、哀、

感、仰、有、餘、乃、為、銘、曰、  
 維、斯、一、心、即、具、三、千、以、我、則、乖、以、觀、則、圓、  
 鱗、介、異、類、好、惡、同、然、詐、忍、殘、殺、不、知、哀、憐、  
 營、生、嗜、味、速、禍、取、愆、畏、報、於、後、思、戒、於、前、  
 文、明、遇、時、慈、悲、如、天、網、罟、作、禁、魚、鼈、無、度、  
 豈、但、物、命、因、慈、得、全、教、化、所、及、擊、習、能、悛、  
 元、祿、第、六、歲、次、昭、陽、作、噩、春、三、月、  
 武、列、豐、島、郡、金、龍、山、淺、草、寺、權、僧、正、宣、存、誌、

三、島、明、神、社、  
 狗、取、所、の、西、二、丁、と、り、小、あり、祭、神、大、山、祇、命、一、坐、  
 積、小、土、人、傳、云、往、古、河、野、河、某、本、國、豫、列、の、比、より、此、武、藏、國、一、赴、の、海、上、  
 風、波、の、難、小、逢、仍、奉、國、一、宮、の、御、神、小、新、王、奉、り、一、小、恙、あ、り、首、岸、  
 一、之、神、息、を、報、奉、ら、ひ、つ、乃、弟、宅、の、比、小、勸、請、あり、一、由、昔、ハ、下、苦、坂、奉、小、あり、  
 一、之、綠、年、中、今、の、比、一、近、さ、り、其、田、地、東、藏、山、の、東、の、祭、礼、ハ、毎、歲、五、月、十、五、日、外、り、  
 其、田、地、東、藏、山、の、東、の、祭、礼、ハ、毎、歲、五、月、十、五、日、外、り、  
 其、田、地、東、藏、山、の、東、の、祭、礼、ハ、毎、歲、五、月、十、五、日、外、り、  
 其、田、地、東、藏、山、の、東、の、祭、礼、ハ、毎、歲、五、月、十、五、日、外、り、

其、地、より、清泉、涌、出、故、小、清水、の、名、あり、其、後、管、中、感、應、寺、の、坊、と、り、法、華、の、勸、請、と、  
 あり、と、寒、松、院、構、の、うち、と、あり、今、清、水、と、号、す、も、其、田、地、と、り、一、と、り、一、と、り、  
 其、地、より、清泉、涌、出、故、小、清水、の、名、あり、其、後、管、中、感、應、寺、の、坊、と、り、法、華、の、勸、請、と、  
 あり、と、寒、松、院、構、の、うち、と、あり、今、清、水、と、号、す、も、其、田、地、と、り、一、と、り、一、と、り、  
 其、地、より、清泉、涌、出、故、小、清水、の、名、あり、其、後、管、中、感、應、寺、の、坊、と、り、法、華、の、勸、請、と、  
 あり、と、寒、松、院、構、の、うち、と、あり、今、清、水、と、号、す、も、其、田、地、と、り、一、と、り、一、と、り、

又江戸名所記の説  
行道花畑と稱する池の管合より流せしめる清水ありこぼるるは

小弘法大師東國遊化の御武藏國まきひとの小坂小の坂足ありといふ

あゝ頃老女の水桶を戴て行ゆり大師彼の水を乞はまし時老女の云く此辺

水乃く遠く是を汲由まうりこれ大師憐み獨鉢を以て加持たまひ

其所小清泉涌出と其傍小當社と勧請しあひたるといふ

諏訪明神社 同所説所小あり祭神ハ信苺の飯訪小同く健御名方命

るそ當社の権輿へ至て久遠より未由等詳あり

權寺 同所黒船町小あり浄土宗と僧上寺小屬す此中山正覺寺と號す

奉尊阿弥陀如来の惠心僧都の作りて寔山の觀智國師あり往古當寺小

名ある大木の權りり一故小号とせりゆり

石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 名命小仍て石清水正八幡宮と

勧請せり 昔ハ文珠院の八幡と稱し高野山行人の僧住職 別當と大護院と号し雄

徳山と云寔山幸沼法印あり護摩堂の本と云ハ大明王とて運慶の作り

弘法大師東國遊化の  
まきひとの小坂小  
の坂足ありといふ

あゝ頃老女の水桶を  
戴て行ゆり大師  
彼の水を乞はまし

時老女の云く此辺  
水乃く遠く是を  
汲由まうりこれ

大師憐み獨鉢を  
以て加持たまひ

其所小清泉涌出  
と其傍小當社と  
勧請しあひたる

といふ

其所小清泉涌出  
と其傍小當社と  
勧請しあひたる

といふ

其所小清泉涌出  
と其傍小當社と  
勧請しあひたる

といふ

其所小清泉涌出  
と其傍小當社と  
勧請しあひたる

といふ



三島明神社  
 諏訪明神社



岡魔堂 八幡宮より南の方式三丁と隔つ松光山長延寺と号し奉る岡羅王

ハ運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小岡王殿とあるハ延享年中未聘韓  
 人の筆ゆり當寺ハ慈覺大師草創ありし時昔ハ下野岡小ありと文承年  
 中此比一遷すこと 或説小昔の震う字ありと岡初の頃る養所  
 諸群集す うつこれ後復いすの比ひつろとあり 毎歳正月七月十六日夫

棄衣は安像 運慶の作りて奉る 化馬地藏尊 徳吉子の作昔ハ紀の那智山ありと  
 歸入りゆぬいといふ 光山觀世音 光山院深く觀音菩薩とぞ信いぬ其蹟の普門品大悲  
 佛眼上人として養眼供養せし法皇とて觀音の畫區三十三所觀音頌れ煩禮ありせられりと此像  
 古蹟 せありしと傳あり故あつて東嶽山より移し奉る是則及佛の権輿あり當寺境内ハ文承十一年の

祇園社 岡所岡魔堂の南小隣る當社牛頭天王ハ天曆年中の眞座ありと

大倉前の總鎮守小一別當を大田寺と号し  
 十王堂 境内小あり慶長十八年又寛文御建ありと中より比載菩薩とて左右小眞府十王  
 像を安置せり

銀杏八幡宮 岡所福井町あり傳へ云當社の永美六年源頼義朝臣岡



正覺寺  
 八幡宮  
 入の境  
 中  
 八幡宮

御厩河岸渡

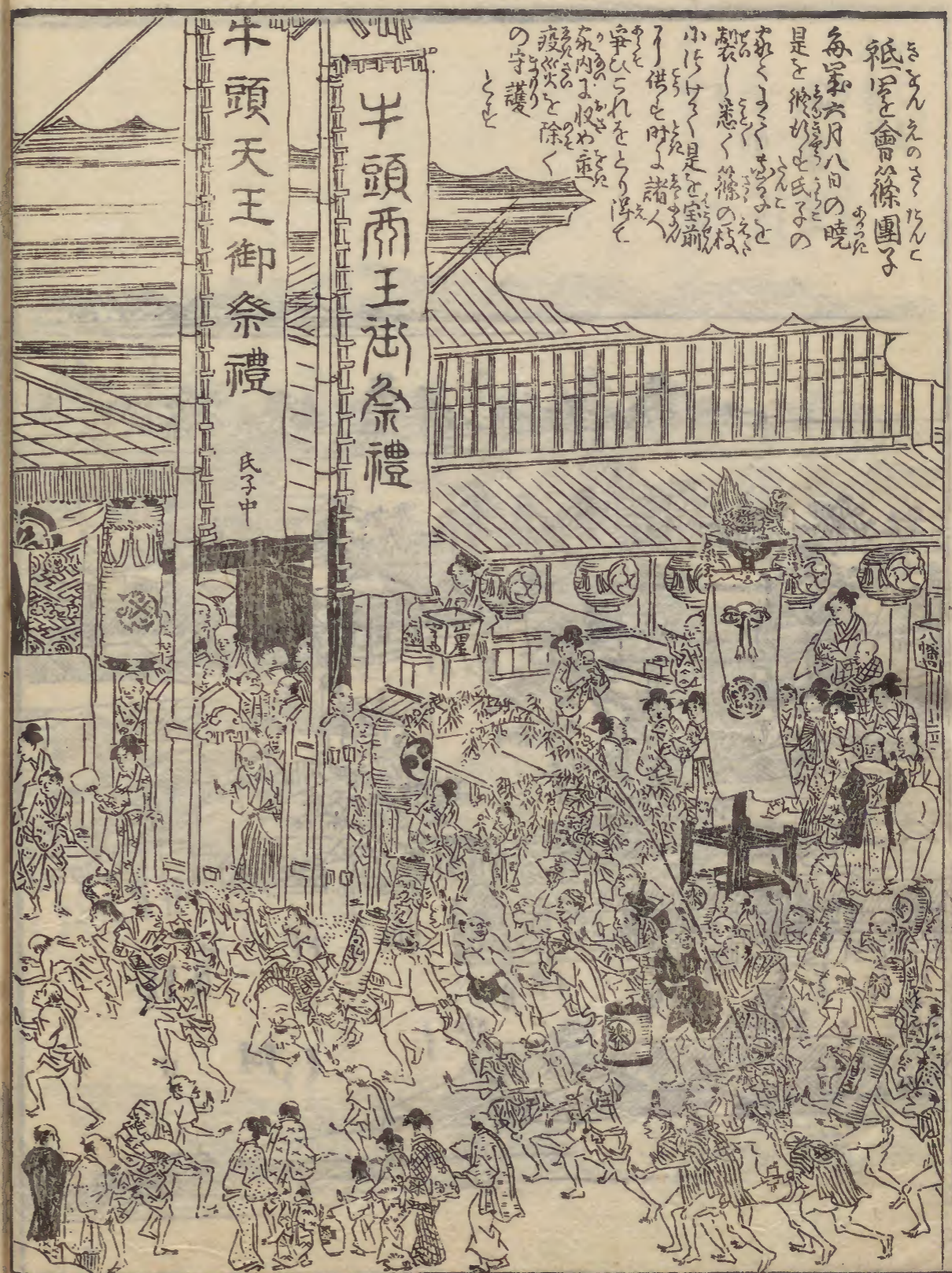


義家朝臣眞の初下向の時と小至りたす小河上より銀杏本の流を来ふ  
 あり則義家公手はくく地はけ一誓て曰朝敵退治勝利の此樹すやふ  
 枝葉と栄へへとあり遂は其軍勝利ありて凱陣の時々ひとよありぬふ  
 枝葉栄々ふ八幡宮を勧請しぬひとを其昔ハ八幡塚と唱りてとるん神本  
 の銀杏樹ハ延享二年の秋暴風よ吹折て今も其枯株を存せり  
 第六天神社 後草橋の外あり昔ハ大倉前森林田所なり一収享保に年火  
 災の後今の地に移る祭神ハ面足尊根尊なり 天神ニ代り祭禮ハ毎歳六月廿日あり  
 孫塚稲荷社 當地の旧社なり 注古は西ノ茅系ノ里ニ 昔新田家臣孫塚伊賀守當社ハ  
 作一畧ハ入道ト社の側ニ庵室と結ひて住居別當玉花院ハ主齋孫なりと云り  
 多越里 多越明神の辺より大倉家の辺までとより小倉家分限帳小倉氷若丸忠門  
 江戸多越村の内と傾する一記せり  
 元惠北國紀行ノ文明十八年十二月廿三日隅田川の辺を越といへる海村ニ孫流といふ箱のり被宅  
 又蓋ヤとりて閑林ハありちをくると金老さふを書一をへり同十九年元日よ  
 あささるる彼をひけくや荒は根のぞんと云ふ孫小倉孫立らん 元惠



大倉前  
 岡魔堂  
 牛頭天王  
 十王堂





紙屋と會公徐園子  
 毎早六月八日の曉  
 是を彼好と氏子の  
 おおくうくあふみを  
 裂く悉く篠の枝  
 小けけく是を室前  
 了供を時よ諸人  
 守ひこれをとら浮く  
 家内よぬぬ  
 疫災を除く  
 の守護  
 とこと

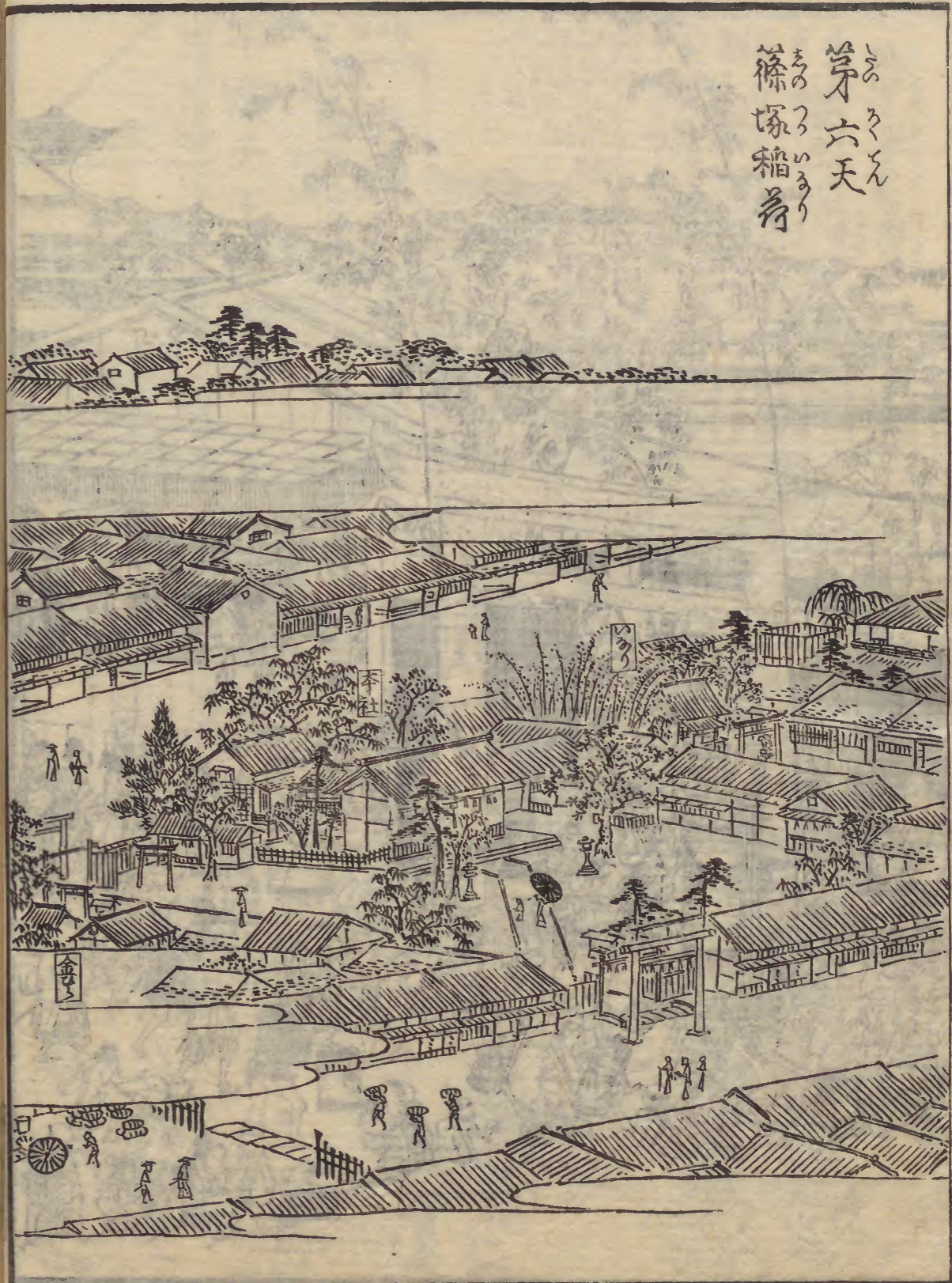
牛頭天王御祭禮

氏子中

牛頭兩王御祭禮



第六天  
孫塚稲荷



田圃雜記 鳥越の里とりの所へ行きて

暮小なり平らりのりくといとく日小あれ寝小行鳥越乃里 道再准后

鳥越明神社 元鳥越町あり此邊の産土神とす奈神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔の第六天神熱田明神と合せて鳥越三所内社と号けり正保二年此地

より熱田の三谷の地より第一第六 當社の最古跡ありとも舊記等散失して勸請の年曆

未由等詳ありすといつり祭禮ハ隔年六月九日あり

東光山西福寺 良雲院と号けり 良雲院殿 御尊體と号けり小等一 鳥越明神

より三所を東の方小あり江戸浄宗四ヶ寺の随一して奉尊阿弥陀如

来の安阿弥の作あり 三の功より 元山を真蓮社貞譽了傳上人と号けり 天和八

寂を 遠の刃屏り割戦死の迷魂得脱の師あり 迷意得脱の功ハ武父の戦功

小等一乃其功と永世傳へんと 神祖 松平の御称号并山号

等とあり往古三の功ありと慶長の頃 台命よ依て歩國後阿基

小秘され又寛永十五年今の所よて地とあり一其中法幢と多檀林小准と





新  
浄念寺  
東漸寺  
龍宝寺

東照大権現宮神影

神祖并々 台徳公及び 良雲尼公の御壽影ともありせり

仁島辨財天祠

崇徳寺の境内にあり 辨財天の御像あり 弘法大師の筆ありといひ 崇徳寺の御像あり

化用山常照院浄念寺

同所西福寺の北の通あり 浄土宗 宍山ハ性善上人

露体和尚

永禄年中の草創と云ふ 阿弥陀如来ハ慈覚大師の他

寛永十二年駿河臺より今の地に移る

大師の作乃 境内ハ慈覚

正保山東漸寺

醫王院と号ス 天台宗より 東叡山小屬を浄念寺の北小

あり奉尊薬師如来ハ行基大師の作あり

書寫性空上人常小獲持の靈像あり 賜士

宍山ハ慈覚大師より

田道灌再興と始御城内あり

了と後小神田芝崎村に移り

又正保年中今の地へうつせり

手向野

寛文の以戸田茂睡といひ 此所ハ草庵といひ 住一子伊右衛門の作あり

記

是共此地ハ同不舎移るの境内にて 茂睡史歸並一子伊右衛門の墓あり されハ全移るあり 茂睡の墓あり

或人云は 茂睡史歸並一子伊右衛門の墓あり 茂睡の墓あり

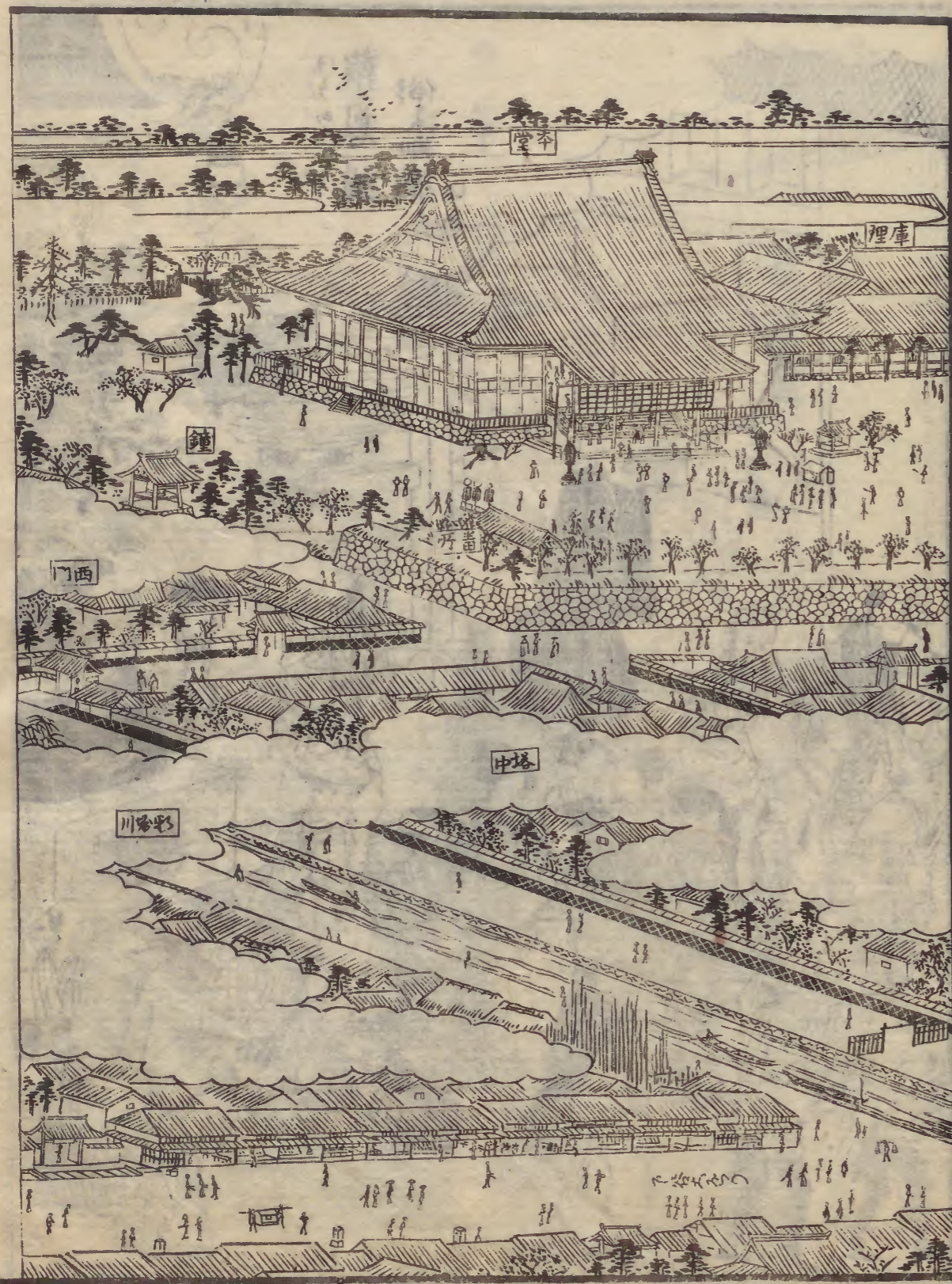
同の墓あり 茂睡の墓あり

東本願寺

土月廿二日より

同く廿七日迄 宍山忌の門 徒の道俗 群衆を







西山宗图

平等  
りせろ  
そーや  
お霜月



報息講  
俗子御講  
り

東奉願寺

新堀端大通小あり元山教如上人其先奉山の住

職たることと豊臣家のをわしとて順如上人の舎を奉寺の門跡小定わ

らと教如上人を故るく退隱せしめ裏屋舗小並れしを裏方といひり

神祖竟小 召出され元祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の未まを

新の御堂屋舗小なり賜る夫より後東西とつかる 其後此所は未寺建立あり夜中

一寺成建く京都よりの輪番所となり此中の門徒を勧化す 信則神田より寺地を借領す

若此今日昌平橋の外加賀を敷と唱る所は明暦の後今の比小移れり 當寺を朝鮮人未聘の

御縁館とるる 元山忌 毎年十月廿二より同廿八日までの間續花説法等あり

之花會 毎年七月七日真行と 倍小是と御講と稱す一は報恩講ともいふそのあり

高龍山報恩寺 謝徳院と号し東奉願寺の東小隣る一向所よりて宗

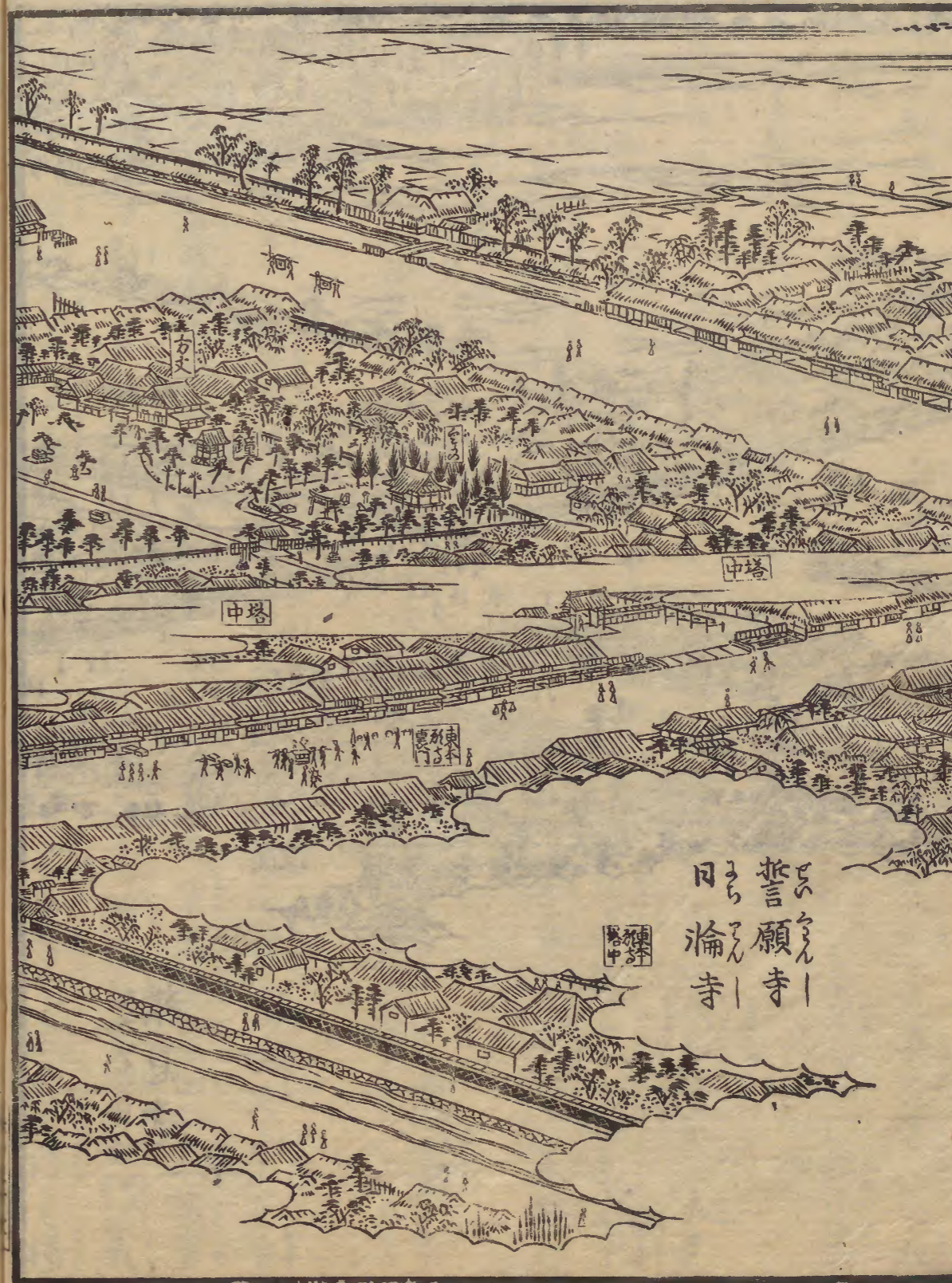
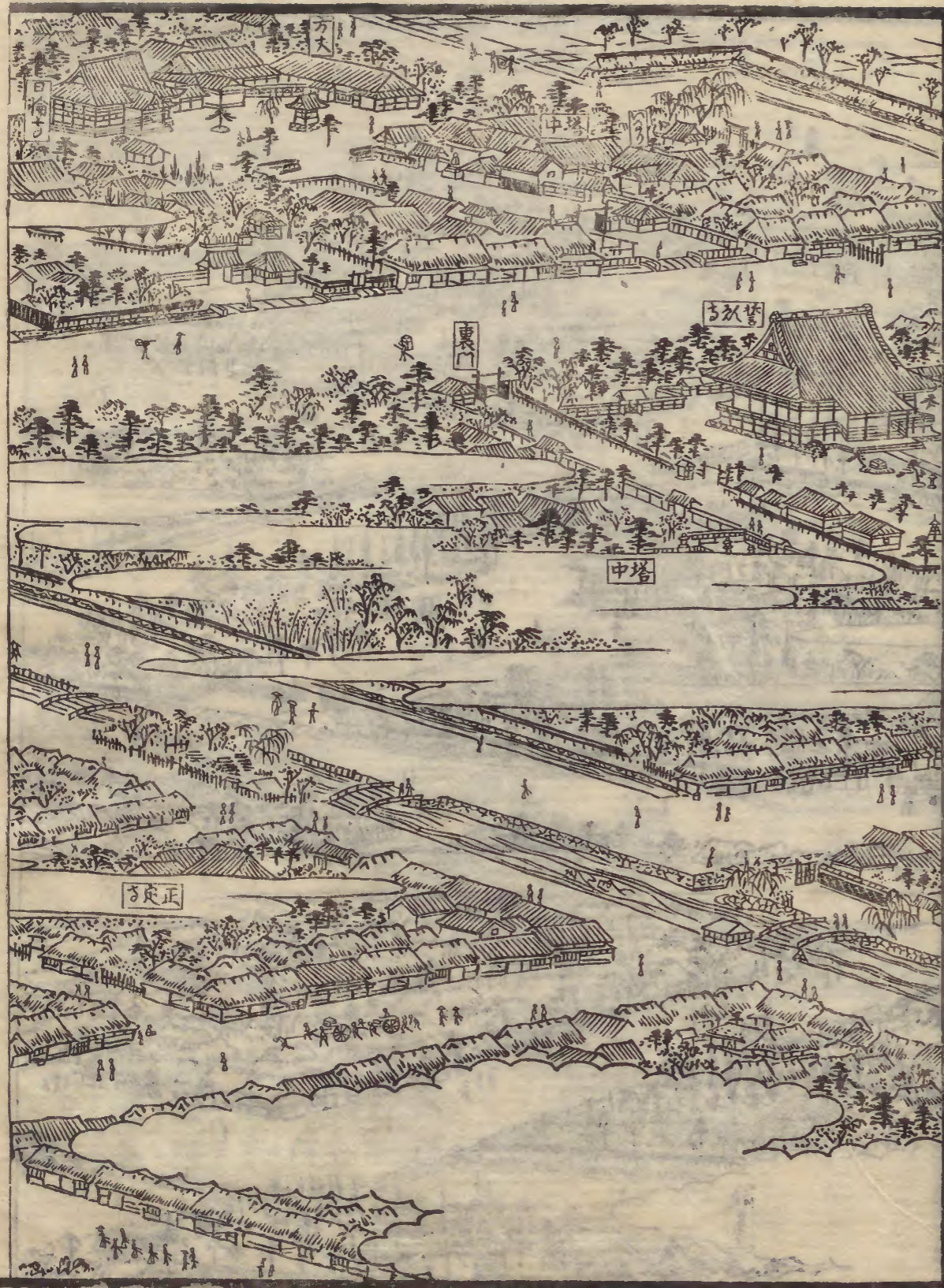
祖上人の遺跡二十四葦所の随一あり當寺は下總國豊田の左横曾

根に有る數十世後結清の城主七郎左衛門晴朝の臣賀賀答行某

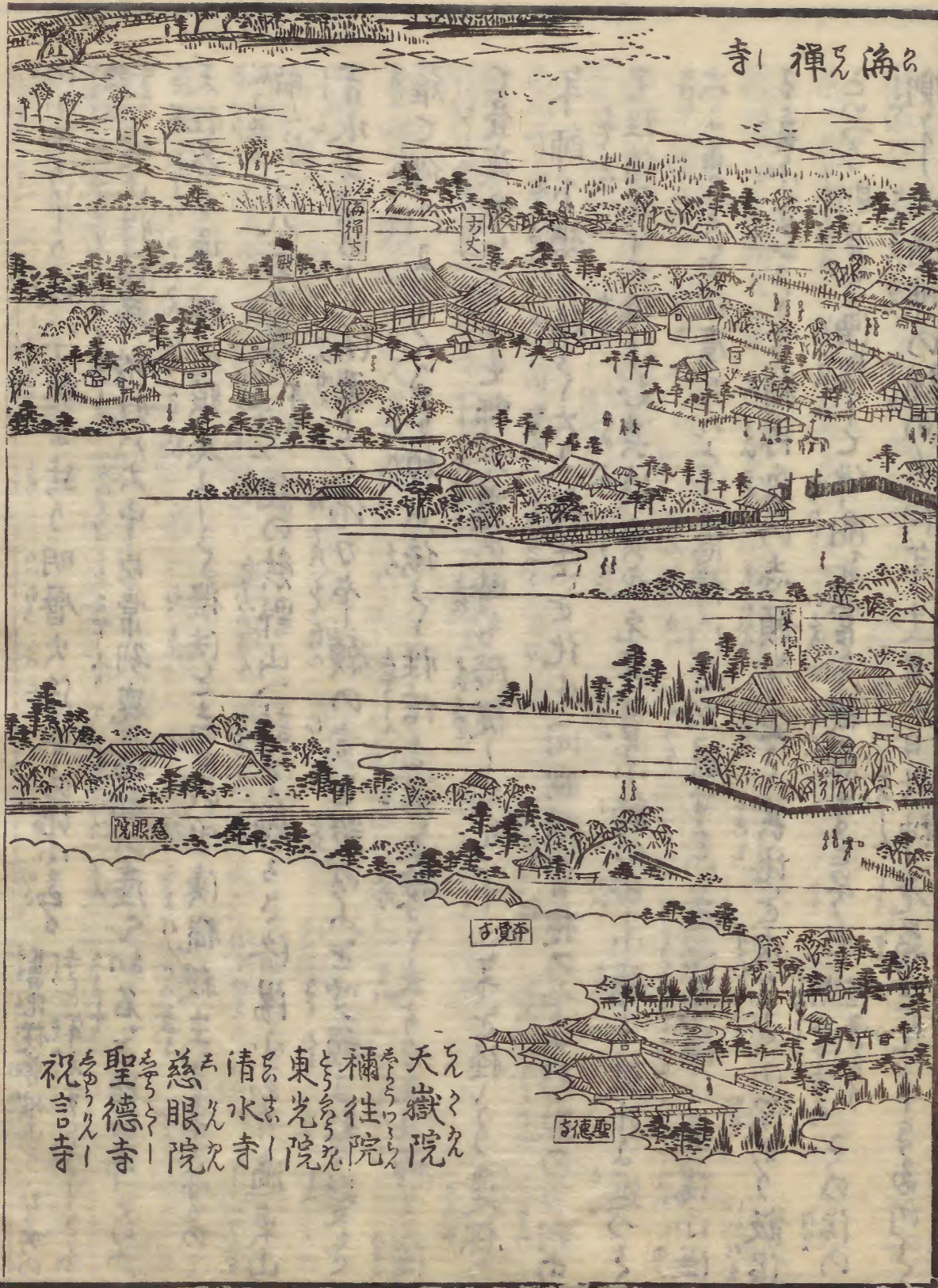
といふ者の為よ寺領由等と押領せしむと終り武刃初移り梯



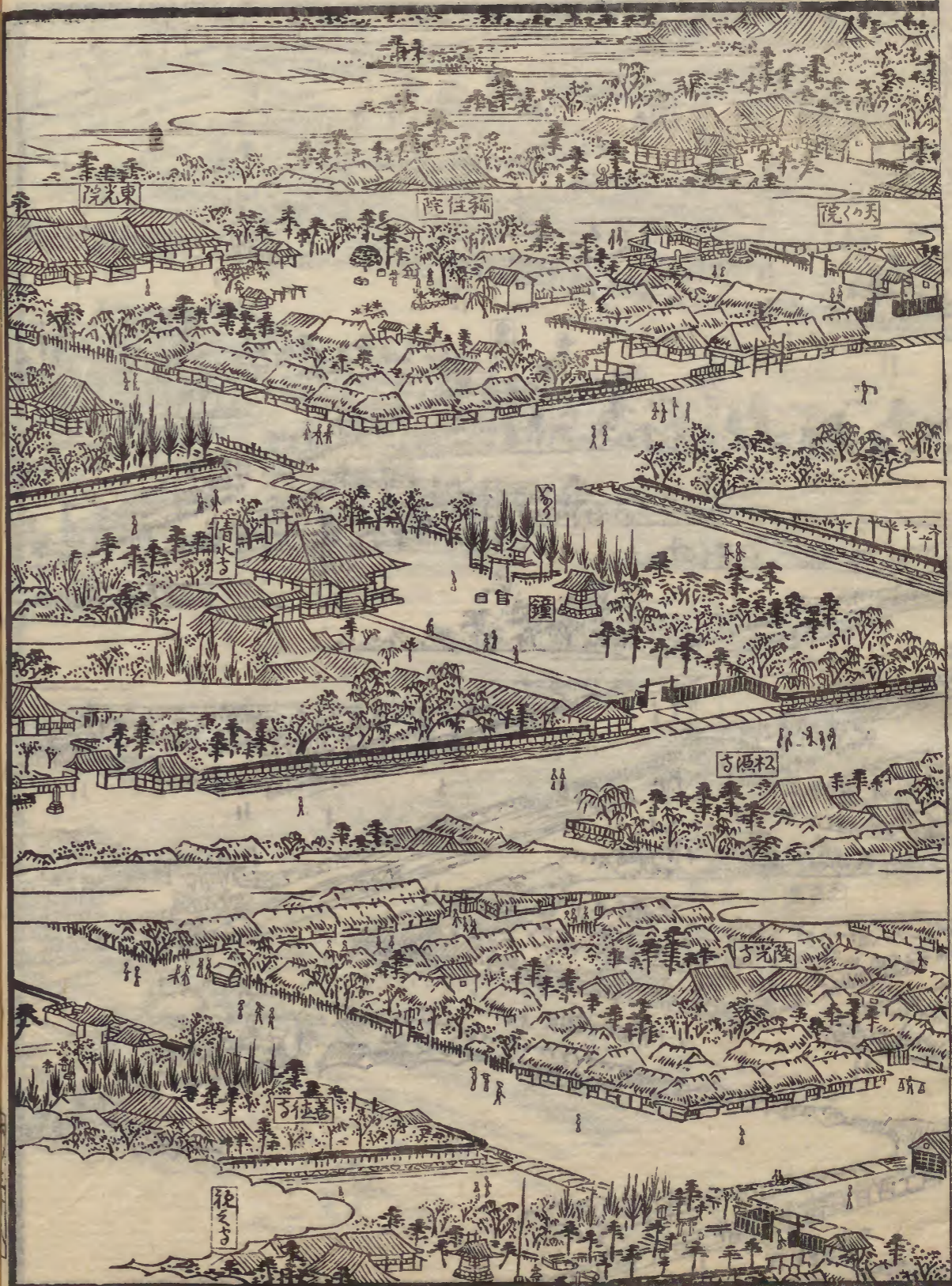
報恩寺







公海元禪寺  
 天嶽院  
 禪院  
 東光院  
 慈眼院  
 聖德寺  
 祝言寺  
 古德聖  
 古德聖



東光院  
 禪任院  
 天嶽院  
 清水寺  
 古德聖  
 古德聖  
 古德聖  
 祝言寺

田小ありり後八丁堀に迂り明曆火後今の地小る舊地横曾根小とち野の寺と軍光寺と号し今

猶存 兎山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之幻名を與四郎といひ

天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去らん唯漢獵殺生を事とするのこ

始悪五 十八年の春 紀の熊野山へ詣り歸るさ洛陽小るり適東山

吉水よひひく法慈上人依力奉願の旨を説めをゆ頭よ鬢髪を

薙て佛門よいんを頼み依り性信と名を授く夫より寫師り隨

て昼夜側をさりと師充遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二

年師下總よ往り大に群生を化と同國横曾根のや朽敗の古刹の

そ性信をして住しむ其後貞永元年竟小師の命小應り彼地よ返つ

大よ東冥を化度とんと念佛門を弘通する小道俗元満り場小益

る多小をひく古刹再奥の志願を企く其地を求りこ小沼あり飯沼

とつり則是と埋り佛圖を營り報恩寺と号と測當寺の権堂あり

側り天満神の初あり同年十一月七日此神老翁と化りさぬ

聞法隨喜一師弟の約懇懃るり此時紫の戸帳一重又天福元年正月十日此神何

某の夢小生り曰く是より後永く師資の禮讓として御先の鯉魚を

報恩寺よ贈るへと云云依鯉魚二喉を捕り師小贈り師も又是を謝らん乃神

前小鏡餅二枚と供と此勝答の例今よ多り急慢あり每歳正月十日飯沼天林の御先の

返れりて鏡餅を供と則徳佛よも天満宮の神前よ供り性信房の供とせり又報恩寺よりも

同廿五日初連平と奥行り後鏡餅を供り徳佛よも同如とす建長二年の頃性信夢るる

あつて奥列山中よ自過去生の枯骨反得り其地よ寺を營り法徳寺と号を中古

詳あり竟建治元年七月十七日下總よとみさ寂を示と化壽八十九以上兎山の要

寺寶 親鸞上人壽像 有は拂子を持しなは珠粒を持嘉貞乙未年性信坊洛陽小る

彫刻あり性信はあつたられりのとは高祖よ謁しと東國漸宗風よ化りて佛りとのと自

六十三歳の影像ありとつり 五の佛舍利 奉尊名號 眞蹟あり性信坊の

同九字名號 同宗祖上人 殊敷一連 親鸞上人より性信坊の親性信坊過

去生骨 夢想し依り奥加土湯 教行信證一部六卷 親鸞上人の眞蹟あり貞永元

山門の鏡が士とて足成りつゝ悪龍を海中に激しき時此龍を見せ傍を清く是れ伴の  
越え誇り住しては金剛力士の足成りしは優り則性信徳す故とて得て悪龍を退けんとせし後  
雲よきと常加三侯の水中に入後らぬ故と證智比立尼よきと云ふは此龍の居あると云鹿島一詣舟よきと  
傳ふる小風烈しく傾更し逆浪起り既し船を覆さしとす時其寸釵自れ歩く水中に入らば風  
浪さらさらと鳴り舟より舟へ又舟に乗しては前惡龍水中より 松岡茶碓 舟楫あり  
あられ彼寸釵頭あり尼是を得て歸る是より後守と蛇及の釵とつゝと 松岡茶碓 舟楫あり  
茶入 唐菜の寸釵あり 後 細代よき 誓と性信坊の徳を不るゝとつゝ其の餘固扇悌四りの力蓋割の  
袋に三重蔓唐織 藤かとうの覺地上人の筆の繪付すゝ三十余品あり

田島山誓願寺 快楽院と号し東本願寺の北より浄土宗江戸四寺の一

室よりて定山の見蓮社東誓上人のり奉る弥陀如来の安阿弥の作りて  
世に齒吹如来と稱し傳云往古建仁三年十二月廿八日元祖田光大師室小  
在して集會念佛の時金像の弥陀尊佛堂の屏障小映現し頃更しして

没と大師感嘆して乃佛二安阿弥を命じて彼尊容を寫し御長三尺小  
彫刻しし自定眼あてて常々持念しめ同三年十月十九日彼尊像惚

然として口を定眼音を發し親しく大師に十念を授め示末面門遂  
小啓齒微露路を息を吹語を發するの状は髻髻時の人稱して齒吹

の尊像と云 是よりして語燈録とて明遍僧都の撰状等小 大師の滅後執觀坊源

智上人 縁起は小松内府重盛の子備中守平朝臣師盛の息なりとて又幡隨意上人負應の  
行化傳は源智上人の洛陽智息が第二世なりとあり

ちりめ高野山に常行念佛の道場を創起し蓮華三昧院と号し  
彼尊像を傳持して奉るとと竟に安永の未改ありて小校しとて

當寺往昔相か小田原ありとて天正十八年 台命し依り當國より  
はこれ文禄元年奉銀所壹丁目とて始り寺比を賜ふ又慶長のところ

神田領田町に移さん明曆の火後淺草より智比を賜ふ元禄中用譽龍  
岳より圓籠と蒙り常紫衣を賜ふ亦未と降檀林の中より住徹す則

當寺の規模とせり

神田山日輪寺 芝崎道場と号し誓願寺の北の方よりあり奉尊阿弥陀  
如来の安阿弥の作り奉る時宗より當國弘法最初の道場とて 相品  
信淨光寺 兵山真教坊の一遍上人第二世より往古諸國遊化の頃當國豊

嶋郡芝崎村よりあり小つゝよひつゝの最祠あり 神田明神是より今の神田橋御門其

傍一宗の草庵を結ひ芝崎道場と号す 其の 其後ある所の星霜を

狂々慶長年中神田明神の後河臺へ遷され當寺の柳原のりこよ地を

賜ふ又明曆の頃今の地小うつる 寺存なく往古より由緒ありて今も備年九月十五日

神田明神祭禮執行の時ハ當寺より上人以下衆僧皆社

頭より誦経念佛等種々の後法ありて後神樂を渡したるを怪例とするる今も此の如く

光明山天嶽院 遍照寺と号す日輪寺の西隣る浄社の法窟よりて天正

年中善空上人草創と云山ハ圓蓮社満譽上人と号せり奉尊牛嶋觀世

音菩薩ハ唐佛よりて順徳帝建保年中相別鎌倉鶴岡の社僧良真傍都

入宋の時首玉山能仁寺より將來せる像ありて其後豊右衛門の幕下

津田勝重と云る者此像と感得と息え重伊賀國牛嶋と云ふ所より此

靈像の昔よりて群賊の蜂起と治め武威を國中に振ひぬ依人民伏して

牛嶋殿と稱し其後え重當國に越さし頃故ありて當寺より收む則ち

内より島元重の墳墓あり當寺舊ハ浅草橋のらりありて明曆

回祿の後此地に移る

一心山彌往院 同西隣る捨世寺と号す浄土宗より奉る阿弥陀

如來ハ丈六の座像よりて惠心僧都の作るり脇に觀音勢至の二菩薩を

安置す宛山ハ幡蓮社白峯稱往上人 姓ハ飯田氏下の野州 當寺舊ハ小田原

にありて慶長年中當國へ移され湯島に地を賜ふ後復今の地小

列せり捨世一流常行念佛の道場よりて殊勝なり 當寺ハ田光大師

藥王山東光院 同く西隣る暨王寺と号す天台よりて東叡山小鷲寺本

尊溜瀉光如來の像ハ佛工春日の作りけ云慈覺大師當寺を草創

ありて往古ハ顯密二教とも弘めて合宗一百八箇寺の總奉寺たり

中右右田道灌此靈像を宗教に以て地に鬼門に置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教法親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興也

神祖其時院主に命ありては津長久の御祈禱よりて正五九月小大般若經轉

讀せしめらる 此例今もあつて慶長の頃近ハ常盤橋の北にあり其後傳へて其地

とて今も於茶師堂のらり浅草の地を移して明曆回祿の後より

建長二年の秋  
 性信坊爰想(る)し  
 生(ま)るの枯骨(ここつ)の不在(ふざい)を  
 尋(たづ)ねて奥州(おくしゅう)信夫郡(のぶのこほり)の  
 土陽山(つちのひかげ)に於(お)ける一(ひと)の  
 獵人(りやくじん)あり師(し)云(い)く  
 此(こ)の松(まつ)下(した)に我(われ)過(と)ぎし生(ま)るの  
 枯骨(ここつ)あり汝(なんぢ)は  
 是(こゝ)を掘(ほ)りて  
 得(え)るべしと  
 獵人(りやくじん)云(い)く  
 我(われ)業(わざ)を  
 明(あ)むるに  
 明月(めいげつ)の禮(らい)  
 此(こ)の山(やま)に  
 依(よ)る性(じやう)信(しん)坊(ぼう)者(じゃ)  
 信(しん)坊(ぼう)獵(りやく)者(じゃ)の



持(も)つところの  
 筈(はず)を石(いし)上(うへ)に投(な)げし  
 其(その)箭(や)をのれと  
 發(は)して一(ひと)鹿(か)を射(や)し  
 師(し)則(すなは)ち是(こゝ)を  
 獵(りやく)人(じん)と云(い)ふ其(その)鹿(か)を  
 射(や)し其(その)骨(こつ)を  
 掘(ほ)りて我(われ)に  
 示(し)す松(まつ)下(した)に  
 枯骨(ここつ)を得(え)る性(じやう)信(しん)坊(ぼう)  
 信(しん)坊(ぼう)歡(かん)喜(ぎ)踊(おど)躍(やく)し  
 竟(ついに)其(その)地(ち)を封(ふう)して  
 一(ひと)の精(せい)金(ごん)と爲(な)す  
 号(な)す法(ほふ)得(とく)寺(じ)  
 と云(い)ふ



大雄山海禪寺

同所新堀の小山を隔て西の方よりありぬ寺流の禪宗

よして江戸四箇寺の一なり往古平親王将門總別相馬郡よりあり草創

する所の佛刹ありされと和門亡るの後年を歴て荒廢よとよひされり

鬼の栖とるり慶長の頃覺印和尚再興して寺を以て府陽島の北小

移せり其頃

神祖和尚の道徳を尊し一尊教ありとられり後ハ寺院も輪奐と

して宗流殊に盛なり

清水寺觀世音菩薩

海禪寺の向ハ新堀端あり昔ハ淺草橋の内よ

あり明曆火後今の北よりあり寺を以て北山清水寺と号と天長年中

慈覺大師ひとり勝地を求め天台法流の一院を建ちありてと

一の三禮ありて千々大悲の像を作り奉ると其昔ハ佛閣堂を

あり魏々たり一昨年去年末に星霜を歴り堂塔大に破壊せ

しを文祿年間慶圓法印ひとり沙門靈告心得て叡山正覺坊の探題

豪威僧正と相謀て堂宇を修營一昔に復りし

上宮太子堂

同不き丁より坤の方よりあり寺を用明山を德寺と号す

浄土宗より奉尊聖徳太子像ハ御自作ありといふ

天皇御悩の時太子神明佛院に祈誓言たす至孝の誠を擢めあり御悩事

平愈よりよとよと許實のたより自ら作りてあり御年十六歳の御影像ありて

上人念佛弘通の為此靈像を守り奉ると冥東より坪根澤より一室の

精舎を建ちし其後亨徳二年忠蓮社加譽上人良

祐和尚中興し台宗を改めて浄家とて慶長の頃馬喰町馬場の辺小

移され明曆の後今の北よりあり寺門の内よ此藏尊の石像あり

除厄ち子堂

同所北の方浄土宗天竺山慈眼院よ女とて徳ち子四十

二筆の御時除厄の為自彫刻あり一靈像ありといふ

明曆田禄の時奉るを失く依住僧徳譽上人深く是を悲み竟に靈告と

萬年山祝言寺

同所南の方通を隔て西南の方よりあり曹洞派の禪宗

しりて良山存久和尚宛山たり往き以戸塔の辺視言村とつるよりありて天  
文二十年の頃ち因道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此比は遷り

日蓮大菩薩 因所新寺町より半丁より西南の方より安立山長遠寺

小安置す付云往古は洛南禅寺の普門禅師より年日天子を信致し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自業をととく親是を摸

一奉る靈告よりん弘長元年辛酉六月逢ふ東より豆別伊

東小より因六日蓮上人より謁し彼二尊の慈眼を乞求む則し人宛眼

供糧ありて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自肖像を造りて禅師のものと贈らる 禅師帰寂の後京

師要法寺よりし又妙榮寺より安置せり故あらく文福三年の

頃学方寺より遷り

神岡山幡随意院 新知恩寺より浄家十八檀林の一室より奉

尊阿弥陀如来の安阿弥の作あり 妙龍水 奉堂のたより傍に碑

礎を建る其文中小記

幡随意上人天正十年の秋越後國高田の善導刹に在りて七日の間に時念佛修行あり

依り其の法思のなるは捧りてその清泉ありとのり

宛山演蓮社智鑿言上人 幡随意白蓮と号す相州孫澤郷善

行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十五日に生る兒に

る時常に佛像を禮し妙門を教す九歳よりその頃出たてんりとのそ

ひとしとも父母是を許を既りて十一歳竟小因國玉繩邑二傳寺の範譽

上人より授り落髮授戒し幡随意と号す爾来一汚くを袪塵し数回の年

序を詮宗要の玄微を究む 天正年中上の館林の刺吏藤原康政の請よりて此地に

下徳圃冥宿より大竜寺を早創り又 慶長七年壬寅 第六 洛陽知恩院より住徹

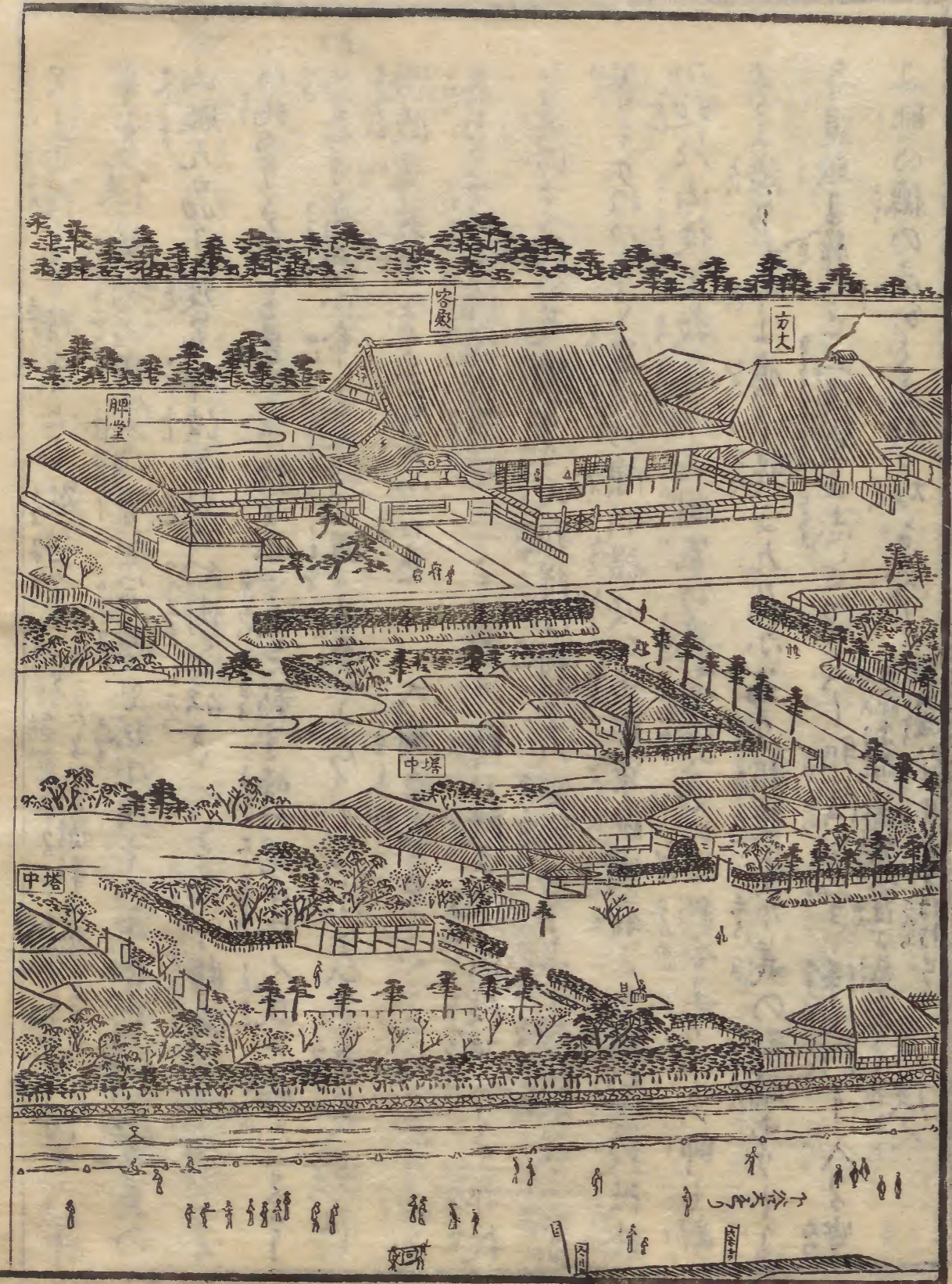
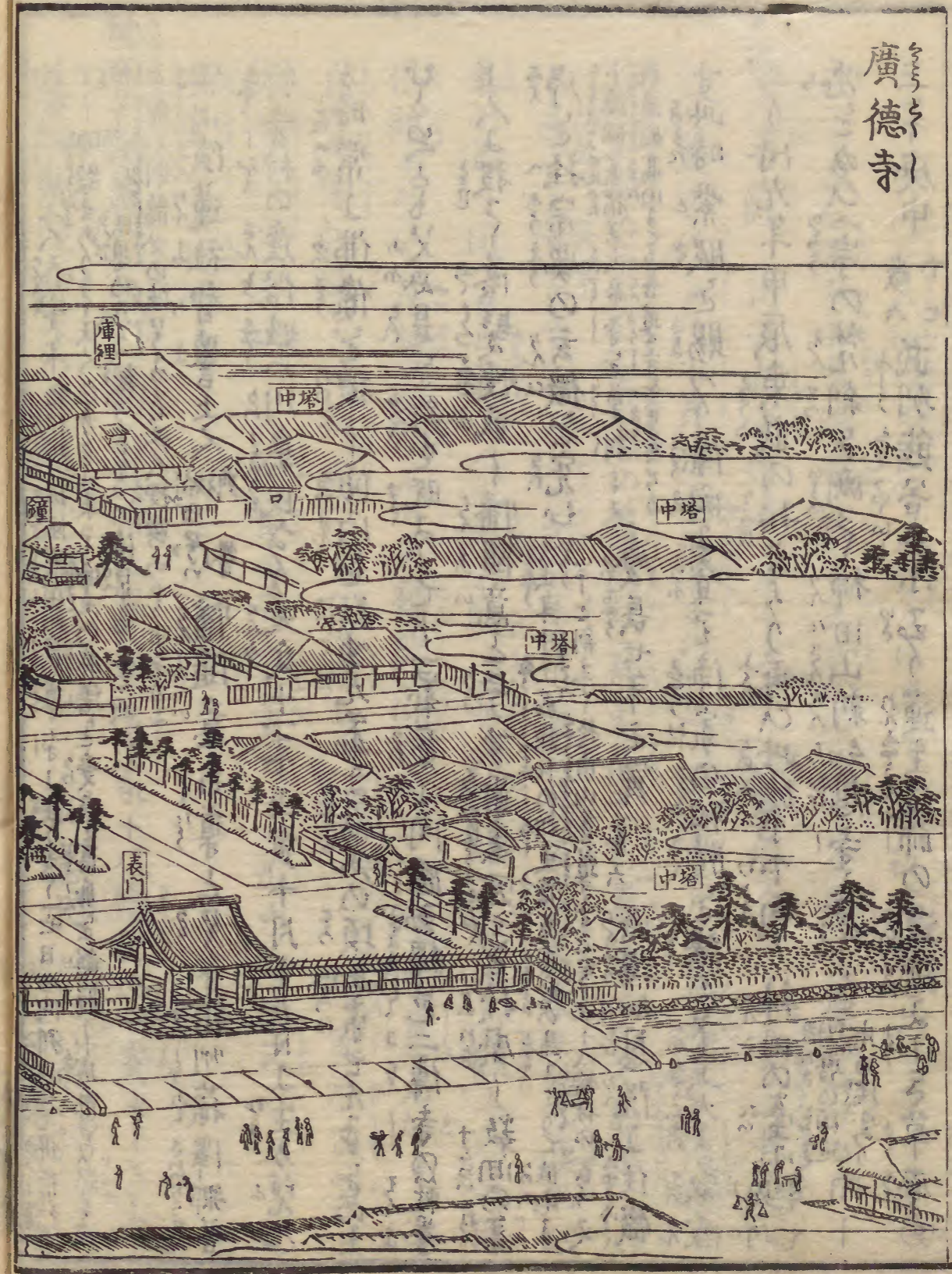
す此時紫服を賜り鳳闕より登り浄家の秘蹟を講じ主上大に獻感

あり因九年甲辰東武の招より再び此比小下向し神田の臺小聖に

比を以て一宇の林九刹を闕し神田山新知恩寺と号す 此の際より因十

三年庚申 歳六 武別熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

廣德寺





己一を轉々々々精舎と一姓谷寺と号す台命はよりり金程の安樂と 同十六年

辛亥歳 勢別山田小入門寺を完基を姓小同十八年癸巳歳 蠻夷の

凶賊九カ刃小發了邪法を弘め幻術を以て人を惑へ頗爾を頓んとせり

の兆あり然とも是と平治す小予支を動す時の國中の人民を慶小する

正法より高僧小命一正法より道一ゆひよる一を以て衆義一交一

幡隨意其器よりとて直小石止 大樹自命よりて云く吾軍四

患ある時の必佛法の護持よりととり師ハ既よ天下の法將よりと邪徒

と退治す此の英雄より又邪從小對する軍將の予支を揮ひ敵陳より小

等一われのとて蜀江の陳羽織及び金の軍配團扇とを賜ひ急に彼地

小赴れ凶徒を教化せしめ國家の患を除へるの旨釣命あり一師も辭

するよ語あり命よ應へ終よ九カ刃小あり邪徒と宗義の對論あり一

各道理よ歸一と凶徒並よ志をひる一邪法を出る淨土門へ入る實

よ師の徳のよありと志むるなるへ一 其後又

命令よりりわ一と梵宇を割多一觀音寺と号す有馬氏城前國九國と移

後崎陽よりり大音寺を解れ竟よ晩年よとて紀別和平山よ於て萬

松寺を建せ一と住られ一日微疾と市と上足意天和尚保川堂

傳法あり且諸弟よ教誡一遂よ親床よ坐一筆を求め辭世の偈を書

一と云く白道運歩數十年以火消火難思術と書果て筆と擲端坐

合掌一と高聲よ弥陀のその号と唱へ眠り如くよと化と映小え

和元年乙卯正月十五日歳算七十四以上行化傳の

信別善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺とて宗の寺より有公の

筆是とて寺内よ赤城明神と鎮せり

朝日山承昌寺 願成院と号と下管大通あり淨土宗よと鎮蓮社尊譽上人

を完祖とて本寺の阿弥陀如来の運慶の作す觀音の慈惠大師の作とて

世に除尼の寺傳よ云々寺の天正年間下管長者某 草創とて同所長者

卒とて稱と



下り稲荷明神社



町とつるよありとえふの頃今の比より引よりとて明暦二年丙申松浦家の  
母儀永昌院再興ありとあり則境内より長者の墳墓あり

圓滿山廣徳寺

因所よりあり大徳寺流の禪宗よりて始相如小田原

よりありとて天正十九年江戸より遷され神田よりて比を湯小  
車跡合考小昌

其後寛永の末今の比より遷る元

山と希叟宗平禪師とつり

當寺の徳門の名直の美由よりて是近風火の難ありとていとも恙あり最昔直の規  
新とすの所より詳は梅屋主人ありつる新斎夜話とつる草紙より

下谷稻荷社

廣徳寺の向の側よりあり故に併せて廣徳寺の稻荷と称と

是女より説あり別名を正法院とつる祭神は倉稻魂命よりて奉祀十一

面觀世音より行基大士彫刻の靈像ありとて中の鳥井小正一後稻荷大

明神と書る額あり崇保院と寛法親王の真蹟あり拜殿より掲ぐる

同神号の額蓮光院道怒の筆ありとて由社祭れと隔年三月

十一日又執行す下谷の鎮守と称と

